



# 広島県竹原市との広報誌交流（第6回）

## ～歴史と文化財でコミュニケーション～



交流都市提携を締結している広島県竹原市との交流を促進するため、広報誌でそれぞれの歴史・文化財を紹介しています。今回は竹原市で明治時代から続くブドウ栽培について紹介してもらいます。

竹原市域では、江戸時代に始まった入浜式塩田での塩づくりが昭和戦前までの主な産業だったことが知られています。そして、明治時代に始まったブドウ栽培も竹原の伝統産業として知られています。

竹原市を流れる賀茂川の河口地域には、江戸時代に行われた流路の付け替えによって新たな土地ができました。明治時代以降、ブドウ畑は吉崎新開や皆実新開と呼ばれるこの地域で行われるようになり、その歴史には神田家が大きく関係しています。

明治3（1870）年、神田甚蔵は大阪から「甲州種」と呼ばれるブドウの苗木を持ち帰り、皆実新開に植えました。これが竹原でのブドウ栽培の始まりとなります。本格的にブドウ栽培を始めたのは、甚蔵の次男の信助です。甚蔵の植えたブドウが実ったのを見た信助は、麦や綿ができにくい土地でブドウを栽培するようになり、さらに栽培方法を研究し改良していきました。竹原のブドウ棚は少しずつ広がりを見せ、明治30（1897）年頃には、神田家や付近の農家にブドウ園ができるようになりました。

ところが、明治38（1905）年にブドウが病害に侵されて、収穫が皆無に近い状態となってしまいました。さらに、信助も過労で病に倒れて、神田家、竹原のブドウ産業ともに危機的な状況を迎えました。この危機を救ったのが、信助の長男の善太郎でした。善太郎はブドウ栽培や品種について研究を重ね、ついにアメリカのキャンベル氏が完成させ、新潟県の川上善兵衛（岩の原葡萄園創業者）が日本に導入したキャンベル・アーリーという品種に出会います。神田家には、川上善兵衛から善太郎におくられたキャンベル氏の肖像も残っています。

こうした改良や善太郎による研究成果の公開・普及によって、竹原のブドウ畑はさらに広がりを見せ、販路も広島県内、福岡方面、大阪方面へと広がっていきました。昭和戦前と思われる神田葡萄園荷造場の写真には、多くの女性がブドウの箱詰め作業をしている様子が写っており、ブドウ栽培の盛況ぶりがよくわかります。

現在の竹原では、様々なブドウが栽培され、夏の終わり頃には多くのブドウが実を付け、農園の直売所で販売されています。そして、ブドウ畑の一角には、大正7（1918）年に神田善太郎らが植えたと伝わる、市天然記念物「竹原町の長寿ブドウ（キャンベル・アーリー種）」が現在でも実を付けています。



▲ 神田葡萄園荷造場  
(写真左側で正面を向く男性が神田善太郎)



▲ 市天然記念物「竹原町の長寿ブドウ  
(キャンベル・アーリー種)」

(竹原市教育委員会 文化生涯学習課 文化財保護係)

問合せ 社会教育課文化財係 ☎22-6187

広告

あなたの悩みに  
コタエを出します

**面談 完全無料**  
電話 相談予約ダイヤル  
**0134-23-8373**  
平日 10:00~16:00(12:00~13:00を除く)

気軽に  
**電話で相談**  
ハロー弁護士相談 / 月~金曜日10:00~16:00(祝日・年末年始は除く)  
**011-281-8686** 1回15分 相談無料

※掲載の時間や相談方法等は予告なく変更する場合がございます。

**札幌弁護士会 おたる法律相談センター**

広告

障害年金をご存知ですか？  
その傷病…障害年金に該当するかも？

●がん  
●脳梗塞  
●心筋梗塞  
●人工透析  
●糖尿病  
●うつ病  
など

年金をはじめ労働社会保険のことなら  
社会保険労務士法人まっちゃん 余市町大川町6-92-6-407 ☎0135-48-8830  
<https://www.sharoushi-mattin.com/>